



News Release

令和元年6月21日

西日本豪雨被災地の復興を支援する研究プロジェクトでクラウドファンディングを開始 「避難機能付き共同住宅の実現に向けたサツキ PROJECT の公開」について

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、平成20年に前身の危機管理研究センターを創設して以来、防災対策や地域防災に関する調査・研究を実施しています。

平成30年7月豪雨では、西日本を中心に甚大な被害が発生しました。被災地では復興に向けた様々な取組が地域住民や企業、行政、支援者によって進められています。

このたび、被災地の復興を支援する研究プロジェクトをクラウドファンディングにより資金を募り実施いたします。これは、従来の競争的資金獲得による方法とは異なり、社会全般から広くプロジェクトに対する関心を高め、合わせて研究成果の普及といった目的を有しています。このため、一般社団法人大学支援機構が運営するOtsucleを利用し、クラウドファンディングに挑戦することになりました。

1. プロジェクト名

災害の教訓を次世代に残したい。避難機能付き共同住宅「サツキ PROJECT」

※プロジェクト詳細は別紙

2. 研究代表者

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構

地域強靱化研究センター

特命准教授 磯打千雅子

3. クラウドファンディング詳細

・募集期間：令和元年6月24日（月）12時～8月20日（火）まで

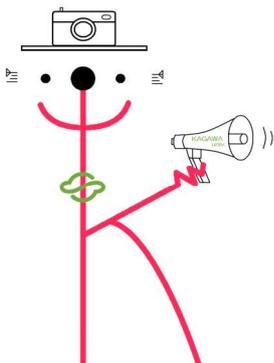
・目標金額：100万円

・寄附形式：確約型（All in）目標金額に達しなくてもプロジェクトを開始します。

・URL：<https://otsucle.jp/cf/project/2113.html>（6月24日12時以降公開）

【※クラウドファンディングとは？】

インターネットを通して活動を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組みです。



➤ お問い合わせ先

香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構

地域強靱化研究センター

特命准教授 磯打 千雅子（いそうち ちかこ）

TEL：087-832-1652

E-mail：isouchi@eng.kagawa-u.ac.jp

※上記不在の場合 研究協力グループ 近藤

TEL：087-832-1620 FAX：087-832-1668

災害の教訓を次世代に残したい。避難機能付き共同住宅「サツキ PROJECT」

■平成30年7月豪雨災害で被害を受けた倉敷市真備町から

倉敷市真備町は先の豪雨災害で大きな浸水被害を受けました。真備町の方は大切な人、住まい、コミュニティ、そしてかけがえのない日常を失いました。倉敷に暮らす私たちは、地域の方々と協力し、今後の地域防災について取組をどのようにしていくのかを考える活動を行っています。

災害に強い住宅をつくり、もしもの時を意識して普段からみんなで支え合える避難機能付きの共同住宅の建設を目的としたサツキ PROJECT がはじまりました。

今回の災害を教訓にし、次世代へ繋げる地域防災プラン「サツキ PROJECT」の実現を支援するため、より多くの方にこのプロジェクトを知っていただきたいと思い、クラウドファンディングに挑戦することになりました。



西日本豪雨災害で浸水した倉敷市真備町

■プロジェクト開始に至った経緯

平成30年7月豪雨災害から3ヶ月ほどたった日、子育て支援をされている団体と建築士、復興や防災研究者のチームで、若いママ世代を対象に住まいの再建に向けた勉強会を倉敷市内で行いました。複数回実施するなかで、勉強会に参加されていた小規模多機能ホームの「ぶどうの家・真備」の代表津田由起子さんから真備町内で勉強会を開催して欲しいと依頼がありました。

被災された真備町の方々とお話しする中で、次の世代にこの教訓をつなげるために、例えば東日本大震災の被災地域で昔からなされていたような、教訓を記した石碑を建立することと同じ目的で、何か目に見える形として残しておきたいという意見がでました。

私たちの子ども世代が暮らす、将来の真備町がどのような街になって欲しいかみんなで考えました。その結果、つながりを大切にする街、安心・安全に暮らせる街、障がいをもたれている方やお年寄りなど多様な方が暮らせる街、次の災害に対応できる街を目指そうということになりました。

そこで避難機能を備えた共同住宅を建てるというアイデアが生まれました。

■サツキ PROJECT とは

小規模多機能ホーム「ぶどうの家・真備」の代表・津田由起子さんが中心となって進めているプロジェクトで共同住宅の1階をフリースペースとして地域の方々の交流の場として活用し、有事の際にはその共同住宅を地域の方々が避難する場所として利用するというアイデアです。

この共同住宅は、大規模な建物を1箇所につくるのではなく、なるべく小さな範囲の地域に数多くつくるのが重要になります。そうすることで住民の方は普段からフリースペースを活用して顔見知りのコミュニティでつながりをつくることができ、小さな地域の単位で避難訓練などができると期待しています。

そして何より、日常生活で移動が困難な方が遠くの避難所へ無理をおして避難する必要がなくなります。先の西日本豪雨災害で亡くなった方の多くは、避難できずに自宅で亡くなっていたのです。

サツキPROJECT

興 51人（直接死）の犠牲を伴った西日本豪雨災害からの復興。
誰もが尊厳をもった生活を取り戻すための「住まい・生活」を再建。

支 「ちょっと困った」をちょっとずつ支えあう、得意なこと誰かの役に立つ

伝 災害の教訓を目に見える形で、住まい方で伝え、次世代へつむいでいく。

共 誰もが気軽に立ち寄って、いつも何かがはじまる。ちょっとの楽しみもちょっと不安も共有できる。

展 「水害に強いまち」のシンボルとして、避難機能付き共同住宅がサツキが花開くように全国に普及していく。

いきる つながる つたえる つどう ひらく サツキPROJECT

■倉敷市真備町だけの問題ではない地区防災の壁

現在、全国的に「地区防災計画」という地域の住民や企業の方が自分たちで災害時のルールを作成して、行政に提案する活動が行われています。

その際に多くの地域が直面する問題が、避難する場所がないということです。

津波や水害から逃れるための避難所をどのようにすれば確保できるかという問題が地区防災の大きな壁となって立ちはだかっています。水害が心配される地域は標高が低く、かつ低平な土地である場合が多く、そのような地域は郊外であれば堅牢で高層な建物が少なく、密集地であれば逃げ込める建物があったとしても収容人数が不足しがちです。

住まいの近くに見知った顔なじみの地域の方のための避難所があり、避難する心理的・物理的コストが下がれば、非常に有効な地区防災の手段となり、地区防災計画の普及も加速すると考えています。

■みなさまへお願い

今回の災害から倉敷が、真備町が復興し、次の世代に教訓を財産として残していくために、このサツキ PROJECT を実現したいと思い活動しています。

皆様から頂いた支援で行う研究は、このサツキ PROJECT で建設を考えている避難機能つき共同住宅に必要な設備や機能、運用ルールを考える地区防災計画についての研究に当てさせていただきます。また同時に、研究の一環としてサツキ PROJECT を真備町や支援を考えてくださる方々へ説明し、地域の方達のご意見などを聞かせて頂く勉強会開催の為の資金としても利用させていただきますと考えています。

地域の皆様のご意見と研究成果を元に、必要とされる地域防災プランの提案を発信したいと思っています。私達の活動に共感いただける方は、ご支援頂けると幸いです。皆さま、どうかよろしくお願い致します。

- ・寄付の方法：このプロジェクトはクレジットカード決済以外に銀行、郵便振込によるご寄附も受け付けています。
- ・資金の使用：頂いた寄附金の一部を CF 手数料やリターンの為の経費に充てさせていただきます。

■プロジェクトの詳細は <https://otsucle.jp/cf/project/2113.html>

(6月24日12時以降公開)

